

編集後記

今号はこれまでにない質量ともに充実したものに出来上がったと思う。音楽学コースの常勤教員のほか美術学部および音楽学コースに縁のある学内外の諸氏からもそれぞれの専門分野に関する玉稿を賜り、体裁の方も論文をはじめ、鑑賞・研究ノート、各種講座報告、卒業生・修了生リレーエッセー、卒論要旨と多彩な構成となった。中でも音楽研究科博士後期課程の在学生の研究成果を反映することができたことは1つの大きな収穫であると言える。また、「卒業生・修了生リレーエッセー」は初めて掲載されたもので、今後これによって本誌の音楽学部および音楽学コースの広報としての役割をさらに強化できるものと考えている。

昨今の研究・教育業務を取り巻く厳しい環境の中、寄稿を快諾していただいた執筆者の方々はもとより、原稿を正確かつ迅速にまとめてくれた編集スタッフたちには本当に感謝している。編集スタッフの司令塔、森本（旧姓鳥山）頼子さんを中心に初山陽子さん、七條めぐみさん、深堀彩香さんら音楽学の院生、学部生たちの周到な段取りと優れた連携プレイによって、こうして刊行にこぎつけることができた。それから、今号の刊行に際して本学の広報委員会から援助費用を賜ったことをここに特記し、広い意味で本誌の刊行が本学の広報活動の一環として一定の理解をいただけたことに感謝の意を表したい。K.M.

今年度は、『ミクスト・ミューズ増刊号』も刊行したために、きわめて忙しいスケジュールで編集を行いました。そのなかで、七條めぐみさんと深堀彩香さんが、春休みの貴重な時間を使って懸命に作業してくれたことは、何よりも大きな救いとなりました。こうして刊行にこぎつけられたのも、ひとえに二人のスピーディーかつ的確な作業のおかげです。ありがとうございました。Y.T.

今号は編集期間中にスタッフのチーフである鳥山頼子さんが結婚され、記念の刊行となりました。一生に一度の大事な時期ながら、編集作業を取り仕切ってください、感謝です。また、若い2人が能力を発揮し完璧に作業を進めてくださったおかげで、厳しいスケジュールをこなすことができました。Y.M.

はじめは編集作業と聞いても具体的に何をするのかピンと来ておらず、また未経験のソフトに戸惑いましたが、その過程で多くのことを学びました。今号の刊行に携わらせていただいたことを、大変喜ばしく思います。M.S.

今回、初めてミクスト・ミューズの編集に関わらせていただきました。初めてなのでソフトの使い方がわからず、手探りの状態で編集作業を進めました。特に表を入れる作業には苦戦しましたが、無事に刊行できましたことを嬉しく思います。A.F.